

『舞踊学』創刊によせて

郡 司 正 勝

昭和五十年十二月に発足した舞踊学会は、ようやく研究紀要の創刊をもつことができました。

永年の希望がやっと実って、日本で初めての舞踊学会を結成する機運が醸成され、日本の舞踊学会が、世界の学会へ貢献する日がきたことを皆様とともに喜ばしく存じます。

駆け出したばかりで、まだまだ未熟ですが、すでに今日まで五回の学会を、春秋開くことができ、昨年十月には、はじめて名古屋で、地方での学会を開くことができました。さらに全国的に、地域の特色ある研究会議が開かれたら、いっそう有益のこと、思っております。

会員も一九〇名に達し、次第に充実しておりますが、まだ知らぬ向きもあろうかとおもわれますので、研究に志す方々を誘って下さって、いっそうの充実を期したいと存じます。

また本年は、八月には、一日より一週間、アメリカの舞踊学会、コード(CORD)とアメリカン・ダンス・ギルド(A.D.G.)共催による、「二十世紀の中の伝統的舞踊」——アジア・太平洋地域を中心として——が、ハワイ大学で開催されることになっており、私も招聘を受け、日本舞踊の理念と命題される講演とシンポジウムに参加することになっております。

日本では、これまで実際の舞踊活動はかなり盛んでも、それを学問的研究の場に移し、その本質なり歴史的意義を考え、さらに新しい方向を示唆する研究団体をもたなかったわけで、ことに東西合せて比較研究する必要を痛切に感じる次第です。

その足がかりとして、研究の交流とそのための発表機関は是非とも必要とするところで、貧弱ながら、このたび本誌が発刊されることになりましたが、さらに将来充実したものにするためには、会員各位の積極的なご支援を必要とするものであります。

高い学問的水準への上昇と、広い普及と、より豊かな実りとを願って、各位の積極的参加と発言を希望する次第です。